

平成 13 年 度 病 害 虫 発 生 予 察 注 意 報 第 3 号

平成13年 6 月20日
青 森 県

アワヨトウの飛来多い！
幼虫の早期発見と早期防除の徹底を！！

病害虫名 アワヨトウ

作物名 イネ科牧草、小麦、スイートコーン、水稻等のイネ科作物

1 発生地域 県内全域（特に日本海沿岸及び下北半島）

2 発生時期 6 月 5 半旬～7 月 1 半旬（幼虫発生）

3 発生量 多 い

4 注意報発令の根拠

県内の糖蜜トラップ設置地点（深浦町、大間町、六ヶ所村、黒石市）4ヶ所で、6月第1～2半旬に大量飛来が確認された。深浦町での誘殺数は約2,600頭で、昭和62年以来の多飛来となった昨年同時期の約1,500頭を大きく上回った。大間町は、例年深浦町より誘殺数が少ないが、本年は約2,800頭誘殺された。六ヶ所村、黒石市でもそれぞれ前年、平年より多く誘殺された（表1参照）。

ネットトラップ及び予察灯では、木造町や青森市でも誘殺が確認されている（表2参照）。

また、深浦町で6月12日にすくい取り調査（25回振り）を行ったところ、既に4齢幼虫がすくい取られた。これは、5月第4半旬前後に飛来した成虫（第1波）によるものと考えられる（表3参照）。

これらのことから、日本海及び津軽海峡の沿岸を始めとする県内全域に大量の飛来があったと推定され、幼虫の多発による被害の発生が懸念される。

5 防除方法

(1)卵巣発育状況調査から、6月第1～2半旬に飛来した第2波の産卵時期は6月9～10日が最盛期であった。

発育速度と平年の気温との関係から、第2波の幼虫の孵化は6月20日前後と考えられる。産卵は枯れた下葉に行われ、若齢幼虫の食害は目立たないので、発生の有無が確認しづらい。幼虫や被害（葉の不規則な食痕）が確認されたら、ただちに防除を行う。防除効果が上がりにくくなる老齢幼虫となる前（7月1半旬頃まで）に防除を行う。防除適期である若齢～中齢幼虫の発生時期は6月5半旬～7月1半旬と予想される（図1参照）。

(2)トラップの設置直後に第1波の飛来が見られたことから、第1波の飛来量は不明である。第1波による幼虫は既に中齢期に達していることから、直ちに発生状況の調査を行い、必要があれば第2波の防除適期を待たずに防除する。

- (3)牧草では防除剤散布後2週間は飼料として利用できない。採草地では、被害が発生する前に刈り取りを行う。放牧地では、7月以降に利用予定の牧区は、可能なら刈り取りを行い、被害発生時の粗飼料確保に備える。
- (4)小麦では、収穫期が近づいており、食害を受けても減収など実害となるおそれは少ないと思われる。ただし、中山間地や生育が遅れ気味のほ場では、登熟不良などの実害を受けるおそれがあるので、必要に応じて防除する。
- (5)枯れ葉に産卵する習性から、水稻、スイートコーン等には産卵されていないと考えられるが、7月以降ほ場周辺からの幼虫の移動・加害に注意する。特に水田では、湛水状態では幼虫が侵入できないが、中干しの時に本田内に進入するおそれがあるので、畦畔などに発生が認められた場合には、中干しを行う前に畦畔等の防除を行う。

表1 糖蜜トラップによる成虫の誘殺状況(6月15日現在)

月	半旬	深浦町追良瀬		大間町内山			六ヶ所村笹崎		黒石市境松(農試)	
		本年	前年	本年	前年	S62	本年	前年	本年	前年
5	4	3	0	1			-	-		
	5	0	0	4			-	0		
	6	3	491	13	22	0	8	0		
6	1	1,363	520	2,006	40	170	173	0	4	3
	2	1,267	491	842	36	151	72	67	1	
	3	46	131		16	44	1	54		
	4		10		1	8		12		
	5		1		0			0		
	6		1		0			0		
計		2,682	1,645	2,866	115	373	254	133	5	3

注) 1. 大間町は6月10日まで、六ヶ所村は6月11日までのデータ

2. 大間町の設置地点は、H12年まで奥戸

3. S62年は、大間町のみで調査

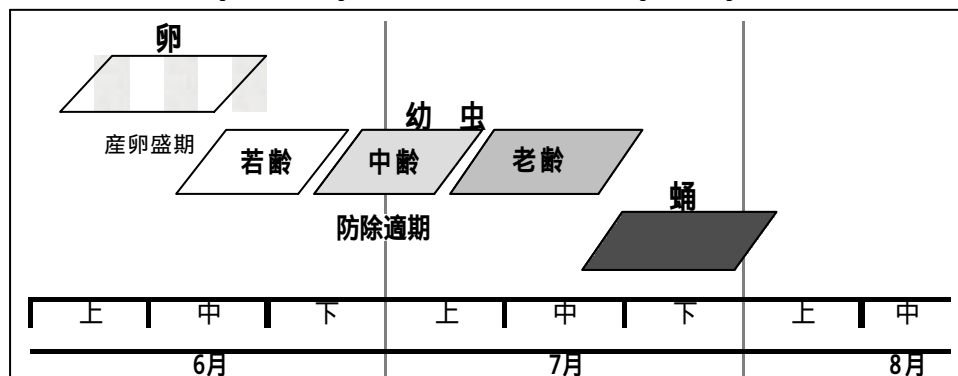
表2 ネットトラップ(6月10日現在)、予察灯における誘殺数(6月14日現在)

ネットトラップ(6/1~)				予察灯(5/18~)			
月日	木造町善積	月日	青森市清水	月日	木造町善積	月日	青森市牛館
6/8	1	6/1	1	6/2	1	6/4	1
6/9	1	6/3	1	6/3	2		
				6/7	1		

表3 すくい取り調査結果(深浦町追良瀬、6月12日、25回振り)

反復	1齢	2齢	3齢	4齢	計(頭)	備考
	2	7	8	2	19	
	1	3	12	1	17	卵塊1つ有り
平均	1.5	5.0	10.0	1.5	18.0	

図1 成虫(第2波)飛来後の発生推移(推定)



《 頭幅などによる幼虫齢数の見分け方 》

齢期	齢	頭幅(mm)	体色等の特徴
若齢	1	0.36	・体色は淡黄緑色、背面に数本の淡黄色の線有り ・頭色は褐色～暗褐色
	2	0.56	・刺激を与えると糸をはいて落下し、ぶら下がることが多い
中齢	3	0.94	・体色、頭色は1～2齢とほぼ同じ、刺激を与えると糸をはかずに落下する
	4	1.44	・体色は暗緑色～黒色、背面の中央に白い細い線、その両側にやや
老齢	5	2.30	離れて暗緑色で白い縁どりのある太い線有り
	6	3.42	・頭色は橙黄色、ハの字の形をした紋有り

注) 体色は、幼虫の発生密度が高いと黒色化する。頭部のハの字の紋や白い線等の特徴はそのままである。

《 登 録 薬 剤 一 覧 表 》

対象作物	農 薬 名 及 び 倍 数	使用量 / 10 a	使 用 時 期
小 麦	スミチオン乳剤 1000倍	180～200ℓ	収穫7日前まで
	エルサン乳剤 1000倍	"	"
イネ科牧草	ディプテレックス乳剤 1000倍	150～200ℓ	-
	ディプテレックス粉剤	3 kg	-
スイートコーン	トレボン乳剤 1000倍	200～300ℓ	収穫7日前まで
	ディプテレックス粉剤	4 kg	収穫14日前まで
水 稻	ディプテレックス乳剤 1000倍	140ℓ	収穫14日前まで
	ディプテレックス粉剤	4 kg	"
飼料用とうもろこし	ディプテレックス粉剤	4 kg	収穫14日前まで

注) 1 . 薬剤散布後の放牧・採草は、薬剤による家畜への影響を考慮し、2週間以上経過してから行う。

2 . ハトムギの本種に対する登録薬剤はないが、作物登録のあるディプテレックス粉剤、エルサン粉剤が同時防除剤として使用できる。